

2022-6-1
No.1077 500円

思想運動

(エッセイ)ウクライナ問題で想(石川逸子) 2面
戦争体制の輸入でなく九条の輸出を(豊島耕一) 3面
HOWS=ウクライナ情勢と朝鮮(高演義) 4~5面
沖縄=「復帰」50年と平和運動 6~7面
原発=「海洋放出安全」神話の流布(角田政志) 8面
ベネズエラ・キューバ訪問の旅 9面
映画「ひまわり」をめぐって(立野正裕) 10面

キューバ・ハバナで行なわれたメーデー国際ブリガードで行進する人びと
(二〇二二年五月一日 撮影 田沼久男 関連記事九面)



壊憲「リアリスト」派が導く地獄への道 戦争の根本原因は資本主義だ

反動化する大衆意識

『日経』の世論調査(今年四月下旬実施)では、日本の「防衛費」について、GDP比「二%超へ」と増額すべきだとの意見に「賛成」が五五%で「反対」の三三%を上回った。世代別にみると、年齢が若い世代(とくに男性)ほど軍備増強を支持している。さらに、憲法改正で緊急事態条項を創設する案に「賛成」が四九%に達した(「反対」が三七%)。

五月三日の憲法記念日に向けに行なわれた世論調査では、『読売』『産経』は前回調査からあまり変化はなかったが、『リベラル寄り』とされる『朝日』『毎日』の調査結果が数年前と比べて大きく変化したことは特筆すべきことだ。『朝日』では、憲法改正に「賛成」が五六%(前回四五%)、「反対」が三七%(前回四四%)だった。『毎日』では、岸田首相の任中に憲法改正を行なうべきかを問う、「賛成」が四四%で「反対」の三二%を上回った。安倍政権下では、「賛成」が三六%、「反対」が四六%という結果だったから、賛否がひっくり返ったことになる。

日本のアジアへの軍 事侵略は仮定の外

『朝日』『毎日』の調査結果がここには「緊急シミュレーション」と銘打ち、四民(山下隆貴・阿南友亮・小泉悠・古川勝久)の座談で構成される「日米同盟vs中・露・北朝鮮」に言及する。国際社会を権力闘争の場と捉える「リアリズム」的思考を重視する四民だが、全体的に「もしも」ならば、という仮定の話に満ち満ちた内容だ。すなわち、権下では、「賛成」が三六%、「反対」が四六%という結果だったから、賛否がひっくり返ったことになる。

『朝日』では、憲法改正に「賛成」が五六%(前回四五%)、「反対」が三七%(前回四四%)だった。『毎日』では、岸田首相の任中に憲法改正を行なうべきかを問う、「賛成」が四四%で「反対」の三二%を上回った。安倍政権下では、「賛成」が三六%、「反対」が四六%という結果だったから、賛否がひっくり返ったことになる。

『朝日』では、憲法改正に「賛成」が五六%(前回四五%)、「反対」が三七%(前回四四%)だった。『毎日』では、岸田首相の任中に憲法改正を行なうべきかを問う、「賛成」が四四%で「反対」の三二%を上回った。安倍政権下では、「賛成」が三六%、「反対」が四六%という結果だったから、賛否がひっくり返ったことになる。

【安在郷史】